

じどう車くらべ
～単元の導入を楽しむ～

授業者 附属池田小学校 中川 雅子

1. 対象 附属池田小学校第1学年東組(34名)

2. 単元目標

・知識及び技能に関して

事柄の順序など、情報と情報との関係について理解することができる。

・思考力、判断力、表現力等に関して

事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えることができる。

文章の中の重要な語や文を考えて、選び出すことができる。

・学びに向かう力、人間性等に関して

進んで説明文における順序を考えながら読み、自分が説明するときにかしたいことを見つけながら読もうとしている。

3. 指導に当たって

(1) 単元を通して育む「グローバル市民」と学習との関連

本単元を通して、「主体的な人」の項目を達成するような学習を進めたい。具体的には、説明文における順序を考えながら読んだり、自分が説明するときにかしたいことを見つけながら読んだりする力をはぐくむ学習である。そのために、児童が「これまでの経験で学んで知っていること」から、学びを深めていきたい。本単元で言うと、児童が好きな車に関すること、すでに知っていることから、児童の説明文に対する興味を深めていく。そして、単元の終末には、「説明文を書く」ことに主体的に取り組む姿が見られるようにしたい。

(2) 教材観

既習の説明文と同様に、「問い+答え+答え+答え」という事例が列挙される文章構成になっている。「どんな仕事をしているのか」「どんなつくりになっているのか」という二つの問いが冒頭部に書かれていて、「バス」「トラック」「クレーン車」それぞれの「しごと」とその仕事をするために必要な「つくり」が説明されている。

「車の名前」、「しごと」、「つくり」という順で説明する文章が繰り返されていて、それぞれの車の「つくり」、つまり車の特徴を捉えると、その車の仕事との関係が理解しやすい。児童にとって、説明文を書くという言活動につなげやすい教材であるといえる。

(3) 児童・生徒観

既習の説明文では、事例を比べたり、事例の順序について考えたりしてきた。本単元では、「説明したい車を選びだし、説明文を書く」という言語活動に取り組ませたい。

「書くこと」に関しては、負担に感じる児童が多く、その理由について「何を書いたらいいのかわからない。」ということが挙げられる。そこで、まず、児童自身が「書きたい」と感じるような単元計画を考える必要があるだろう。そのため、本単元では、児童が知っていること(救急車は人を助ける仕事をしている、など)から児童の興味を深め、児童が楽しみながら学習に取り組めるような指導を行っていきたいと考える。

(4) 指導観

児童が楽しみながら学習に取り組めるよう、挿絵や映像を活用していきたい。

単元の導入部では、「知っている」「話したい」という気持ちを高めるため、挿絵を活用し、知っている車について発表させる。その時に、説明文のはじめの文章を提示することで、何が書かれている説明文なのか考えさせたい。はじめの文をよく読むことで、「つくり」「しごと」という視点を持って中を読み進められるようになることを考えるからである。

「しごと」「つくり」を意識しながら読むことができれば、それぞれの事例を比べることができる。事例を読むときには、「間違い探し」のような課題を設定し、挿絵から発見できる、似ているつくりと違うつくりを見つけ出させる。その中で、「どうしてこんなに違うのか」「どうしてこんなつくりがあるのか」を問うことで、本文の内容に立ち返り、それぞれの仕事の違いを読み取るができるようになることを考える。

事例を比べることによって、事例の順序について考えたり、自分が説明したい車のつくりやしごとに着目したりできると考える。「説明文を書く」という言語活動に円滑につながれるように、似た学習課題を設定し、指導をしていく。

4. 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
事柄の順序など、情報と情報との関係について理解している。	事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えている。文章の中の重要な語や文を考えて、選び出している。	進んで説明文における順序を考えながら読み、自分が説明するときにかきたいことを見つけながら読もうとしている。

5. 単元の指導計画(全12時間)

時間	学習内容	主な評価規準	評価の観点			評価方法
			知技	思考	態度	
1 【本時】	挿絵とはじめの文章を照らし合わせ、問いに答える。	挿絵とはじめの文章を照らし合わせ、「しごと」と「つくり」について考えている。		●		ふりかえり
2	説明文を読み、感じたことや比べてわかったことを発表する。	感じたこと、考えたことを伝えようとしている。	●		●	発言感想
3	バスや乗用車の「つくり」を見つけ、「しごと」と関係が深い「つくり」について考える。	内容の大体を捉えている。(車のつくりとしごとについて理解している。)		●		ふりかえり
5	トラックとバスの「つくり」を比べ、相違点を見つける中で、それぞれの「しごと」について考える。	内容の大体を捉えている。(それぞれの車のつくりとしごとの関係を捉えている。)		●		ふりかえり

6	クレーン車とトラックの「つくり」を比べ、相違点を見つける中で、クレーン車の「しごと」について考える。	内容の大体を捉えている。(クレーン車のつくりが他の車と違う理由を説明している)		●		ふりかえり
7	「つくり」の工夫について話し合い、三つの事例を読む中で、事例の順序について考える。	クレーン車が最後に説明される理由について、考えている。		○		ふりかえり
8	はしご車の「つくり」から、「しごと」を見つけ出し、説明文を書く。	はしご車の「しごと」と関係が深い「つくり」を見つけ出すことができる。		○		ワークシート

●・・・形成的評価(指導に活かす評価) ○・・・総括的評価(記録に残す評価)

6. 本時の展開

(1) 本時の目標

挿絵とはじめの文章を照らし合わせ、「しごと」と「つくり」の関係について考えることができる。

(2) 本時の評価規準

挿絵とはじめの文章を照らし合わせ、「しごと」と「つくり」の関係について考えている。

(3) 本時の学習とグローバル市民コモン・ループリックとの関連

① 項目

主体的な人

② 内容

これまでの経験や学んだこと、試みの視点などから目標を持ち、その達成に向けて自主的に粘り強く取り組むことができる。

(4) 展開

学習過程	学習活動および内容	指導上の留意点	評価の観点・方法
導入 5分	<ul style="list-style-type: none"> 既習内容を想起する 「うみのかくれんぼ」の問いや、事例の順序を想起する。 	<ul style="list-style-type: none"> はじめの文章を掲示し、想起させる。 事例を比べて気づいたことを想起させる。 	
展開 35分	<p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;">はじめの文をよんで わかったことを はなそう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「いろいろなじどう車が、どうろをはしています。」という文と挿絵を照らし合わせ、知っている車を発表する。 「それぞれのじどう車は、どんなしごとをしていますか。」という問いにこたえる。 その車の仕事とつくりの関係について考える。 「そのために、どんなつくりになっていますか。」という問の文を読み、挿絵から「つくり」を見つける。 	<ul style="list-style-type: none"> 絵と車の名前が一致するように板書する。 問いの文をそのまま児童たちに問いかける。それぞれの車の仕事(役割)を板書する。 その車が、その仕事をするのに適している理由が「つくり」(その車の特徴)である。その理由を考えさせるために、授業者が「ほかの車でも、ごみを運ぶことはできるよ。」などと児童に問いかける。 それぞれの車の「つくり」を見つけ出すことができるのか児童の様子を見守る。困っている児童には、「その仕事をするために必要なものは何か。」問いかける。 	<p>はじめに書いてあることについて考えているかを見取る。</p>
まとめ 5分	<ul style="list-style-type: none"> 学習の振り返りをする。 	<p>説明文のはじめに書かれていることを読み取り、車の「つくり」と「しごと」の関係について考えることができているかを見取り、次時に活かす。</p>	<p>「しごと」と「つくり」の関係について考えている。</p>

7. 資料:池田地区「グローバル市民」コモンルーブリック

項目	高等学校	中学校	小学校	
			高学年	低学年
主体的な人	これまでの経験や学んだこと, 新たな試みの視点 などから 目標 を持ち, その達成に向けて 自主的に粘り強く, 創造的に 取り組むことができる。	これまでの経験や学んだこと, 試みの視点 などから 目標 を持ち, その達成に向けて 自主的に粘り強く 取り組むことができる。	これまでの経験や学んだこと, 試みの視点 などから 目標 を持ち, その達成に向けて 自主的に 取り組むことができる。	これまでの経験や学んだことから 目標 を持ち, その達成に向けて 進んで 取り組むことができる。
つながりのある人	これまでの経験や知識を関連づけて 創造的に 物事を考え, 周りの人たちや異なる文化圏の人たちとの協働を 構想・実践することができる。	これまでの経験や知識を関連づけて物事を考え, 地域社会の人たちとの協働を 構想・実践することができる。	これまでの経験や知識を関連づけて物事を考え, 学校の人たちと協力して 取り組むことができる。	これまでの経験や知識をもとに物事を考え, 学級の人たちと力を合わせて 取り組むことができる。
探究力のある人	自らの問題として, 身近なコミュニティや世界の出来事 から課題を見出し, その解決に向けて取り組み, 振り返りながら, 創造的に 追究することができる。	自らの問題として, 身近なコミュニティ から課題を見出し, その解決に向けて取り組み, 振り返りながら 追究することができる。	自らの問題として, 身の回り から課題を見出し, その解決に向けて取り組み, 振り返り することができる。	自らの問題として, 身の回り の課題を見出し, その解決に向けて取り組み, 振り返り することができる。
寛容な人	他者の意見や考え方に対して 共感と傾聴の姿勢 で接し, 多様性を尊重しながら相互理解 を深めることができる。	他者の意見や考えに対して 共感の姿勢 で接し, 多様性を受け入れ相互理解 を進めることができる。	他者の意見や考えに対して 共感の姿勢 で接し, 相互理解 を進めることができる。	他者の意見や考えに対して 共感の姿勢 で接することができる。

これまでの経験や学んだこと**から目標**を持ち, その達成に向けて**進んで**取り組むことができる。